

平成23年度第2回 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる
被害防止管理委員会会議録

1 会議の名称	平成23年度第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議
2 開催日時	平成24年3月23日(金) 14時00分～16時15分
3 開催場所	富津市役所5階 503会議室
4 審議等事項	(1) 平成23年度事業経過報告及び予算執行状況について (2) 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)について (3) 天然記念物「高宕山サル生息地」平成24年度事業報告及び決算について
5 出席者名	《委員》 平野 和夫、武次 治幸、渡辺 隆二、釧持 壽志、 石井 正美、渡邊 秀夫、森 孝夫、甲賀 茂晴、 石井 睦弘、池田 文隆、牧野 辰男 《事務局》 (千葉県)八木 令子、新津 啓太郎 (富津市)藤平 則夫、小柴 晴雄、小澤 洋、吉田 嘉子 (君津市)大竹 雅裕、矢野 淳一、當眞 紀子 (調査団)直井 洋司、萩原 光、白鳥 大祐
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人(定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
富津市生涯学習課小柴課長	<p>定時となりましたので、平成 23 年度第 2 回天然記念物「高宕山のサル生息地」被害防止管理委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、出席者 10 名、欠席者 3 名です。出席者は少し遅れるとの連絡を頂いております。よって、過半数の委員の出席を得ており、本委員会設置要綱第 7 条第 2 項により成立しております。</p> <p>会議に先立ちまして、委員長であります、平野富津市副市長から挨拶を申し上げます。</p>
平野委員長	<p>委員の皆様におかれましては、公私共にご多忙の中、ご臨席を賜りありがとうございます。</p> <p>また、日頃当市の文化財行政にご理解とご協力を頂きまして深く感謝申し上げます。</p> <p>本日はお忙しい中、千葉県教育庁教育振興部文化財課から、主任文化財主事 八木様、千葉県環境生活部自然保護課から副主幹 新津様にお越しいただきありがとうございます。</p> <p>昭和 62 年に設置されました当委員会でございますが、サルや猪による作物への被害の声が聞こえる昨今、その役割は益々重要なものとなっております。</p> <p>今回の議題は、</p> <p>(1) 平成 23 年度事業経過報告及び予算執行状況について。</p> <p>(2) 平成 24 年度事業計画（案）及び予算（案）について</p> <p>(3) 天然記念物「高宕山のサル生息地」に関わる諸問題についての 3 点についてでございます。様々な立場からのご意見、ご提案、活発なご審議をお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
小柴生涯学習課長	<p>続きまして、お手元にお配りしました資料の確認を小澤文化主事よりさせていただきます。</p>
小澤文化係長	<p>それでは資料の確認をさせていただきます。</p> <p>最初にクリップで留めた資料を上から順に見ていきますと、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議次第 2 委員名簿と本日の出席表 3 会議の席次表 4 平成 23 年度被害防止管理事業調査報告要旨（13 頁分） 5 平成 23 年度予算執行状況表 6 平成 24 年度被害管理防止事業計画書案（両面 1 枚） 7 平成 24 年度被害防止管理事業予算案

<p>小柴生涯学習 課長</p>	<p>さらにホチキスで綴じた別添資料として、県文化財の八木さんに用意して頂きました「国指定天然記念物「高宕山のサル生息地」に関わる問題について」がございます。これは本日の議題3に関する資料でございます。</p> <p>本日の会議資料は以上ですが、不足はございませんでしょうか。ないようでしたら、資料の確認を終わります。</p>
<p>平野議長</p>	<p>次に会議の公開についてですが、この会議は、富津市及び君津市情報公開条例により一般に公開されます。公開の方法としまして、会議の終了後、会議録を作成し、富津市のホームページにて公開します。</p> <p>これに伴いまして、会議録が会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するために、委員の中から2名の方に署名委員として署名を頂きたいと思っております。</p> <p>議題に入る前に、2名の方をお選びいただき、後日、御署名を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>では、本委員会設置要綱第7条第3項の規定により、議長を平野委員長にお願いします。</p>
<p>矢野文化財係 長（君津市）</p>	<p>それでは、議題に入る前に署名委員を2名決めたいと思っております。こちらからの指名でよろしいでしょうか。</p> <p>（異議なしの声）</p> <p>渡辺委員と池田委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>（異議なしの声）</p> <p>2名の方、よろしくお願い致します。</p> <p>では、議題に入ります。議題（1）平成23年度事業の経過報告及び予算執行状況について事務局の説明を求めます。</p>
<p>矢野文化財係 長（君津市）</p>	<p>平成23年度事業経過について報告いたします。</p> <p>○以下、資料に沿って説明。</p> <p>実施した事業は、1. 被害防止、2. 生態調査と個体数管理、3. 生息環境調査の大きく3つに分けられる。</p> <p>1. 被害防止について</p> <p>電気柵の点検と改修は富津市宇藤原・高溝、君津市平田・西日笠・怒田沢の各地区において行った。</p>

これらの電気柵のうち、高溝地区T 4 + T12の一部と、平田地区K 24の改修を行った。また宇藤原U25a、U25b、U27と旅名K 4が老朽化により撤去された。本年度の事業対象から除外された電気柵は1,139mで、来年度以降事業対象となる電気柵は富津市7,570m、君津市2,458で、合計約10kmとなった。

追い払いについては8月1日から31日までの31日間、延べ102人で実施した。

また23年度の被害実態調査については現在データを取りまとめ中である。

2. 生態調査と個体数管理

(1) T-I群

T-I群内には現在発信器装着個体が不在であり、詳細な行動域の把握が難しいが、本年度は富津市田倉地区での遊動を確認した。個体数は8月3日に101頭をカウントしたのが最多である。本年度から田倉で銃による駆除が再開されたが、オトナメスの駆除は群れ分裂の要因の一つともなるので、分裂防止を見込んだ個体数調整が必要である。

(2) T-II群

T-II内は、発信器装着個体「ワカコ」の追跡により調査したところ、本年度の行動域は高溝・宇藤原・東大和田・大川崎・大田和・関地区で昨年度と大きな変化は見られない。個体数は11月2日に20頭カウントしたのが最多だった。平成18年度の60頭から1/3の20頭になっており、分裂を繰り返して現在に至っていると見られる。

(3) 石見堂群

石見堂群には3頭の発信器装着個体がいるが、そのうちのシンジはT-I群から加入してきたオスである。石見堂群の確認地点は、富津市宇藤原・高溝・田倉・東大和田、君津市平田で、個体数は8月13日に92頭をカウントしているが、実際は100頭を大きく超えると見られ、分派行動をとっている可能性がある。石見堂群の行動域は不安定で群れの分裂が危惧される。

(4) 指定地域周辺の群れ生息状況

1月6日～10日に実施した群れ数調査の結果によれば、現在、指定地域、要現状変更範囲、要協議範囲に、石見堂群、T-2群、怒田沢群、旅名A群、その他3群の計7群、周辺域にT-1群、栗倉群、その他1群の合計10群が確認されている。

(5) 個体数管理

本年度ほぼ全数に近いカウントができたのは、T-1群の101頭とT-2群の20頭で、石見堂群については92頭カウントしたが、実際には120～130頭に上る可能性もある。指定地と周辺部における群れ数と個体数は、昨年度報告した「15群程度、最低400頭以上」を大き

	<p>く変更するものでないと見られる。</p> <p>(6) 捕獲と発信器装着 本年度は宇藤原地区に4基、高溝地区に1基、法ノ木地区に1基、怒田沢地区に1基の計7基の捕獲檻を設置して5頭を捕獲した。しかしいずれの捕獲個体もオスや子供のメスで発信器装着には適さなかったため、個体の計測や血液サンプルを採取したのみで放獣した。</p> <p>3. 生息環境調査 3月に調査を実施し、現在データの取りまとめを行っている。</p> <p>平成23年度事業の経過報告は以上です</p>															
<p>小澤文化係長 (富津市)</p>	<p>それでは引き続き平成23年度予算執行状況についてご説明いたします。</p> <p>○資料に沿って予算執行状況を説明</p> <table border="0" data-bbox="443 869 1295 1093"> <tr> <td>歳入</td> <td>委託料</td> <td>4,473,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(内訳)</td> <td>富津市2,460,000円、君津市2,013,000円)</td> </tr> <tr> <td>歳出</td> <td>予算額</td> <td>4,473,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>執行済額</td> <td>4,045,247円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>予算残額</td> <td>427,753円</td> </tr> </table> <p>以上です。ただいまの事業経過報告と予算執行状況につきまして調査団の方から補足があればお願いします。</p>	歳入	委託料	4,473,000円		(内訳)	富津市2,460,000円、君津市2,013,000円)	歳出	予算額	4,473,000円		執行済額	4,045,247円		予算残額	427,753円
歳入	委託料	4,473,000円														
	(内訳)	富津市2,460,000円、君津市2,013,000円)														
歳出	予算額	4,473,000円														
	執行済額	4,045,247円														
	予算残額	427,753円														
<p>直井(調査団)</p>	<p>それでは補足いたします。まず電気柵の撤去については、老朽化したもの、イノシシ対策を施していないものを中心に撤去しました。現在県の自然保護課によるモデル事業が中断していますが、それが再開すれば、そこで新しい電気柵を設置する方向で動いて頂ければありがたいと思います。</p> <p>なお今月に入ってからT-1群と見られるメス2頭を捕獲して発信器を付けたほか、恩田でも大人オス1頭に発信器を付けたことを報告しておきます。いずれも県の事業で実施したものです。</p> <p>予算執行状況についてですが、残額427,753円については電気柵の精算と報告書の費用に充てる予定です。以上です。</p>															
<p>平野議長</p>	<p>説明が終わりました。ただ今から質疑応答に移りますが、何か御質問等ございますか。</p>															
<p>直井(調査団)</p>	<p>一つ付け加えさせていただきます。石見堂群の行動域ですが、T-1、T-2群の方へ向かって北側、西側へ広がりつつあります。単純に広がっているだけでなく、その行動域は不安定で、個体数も120～</p>															

	<p>130 頭と多いため、分裂の可能性がありますので、早急に対策を立てる必要があると思います。</p>
平野議長	<p>ほかに何かご質問等はありませんか。</p>
森委員	<p>調査の方は細かくやっけて頂いているようですが、実際にはサルの頭数は増える一方で、これから先どうしていったらいいのかという問題がありますが、それを進めて頂ければと思います。</p>
小澤文化係長	<p>その問題につきましては議題（3）の方で取り上げたいと考えます。</p>
平野議長	<p>それでは議題（3）で取り上げることにしたいと思います。ほかに何かごさいませんか。ないようでしたら議題（2）に移りたいと思います。議題（2）平成 24 年度事業計画（案）及び予算（案）について事務局の説明を求めます。</p>
矢野文化財係長	<p>平成 24 年度事業計画（案）について説明いたします。 ○以下、資料に沿って説明。 平成 24 年度の事業計画は次のとおり。 （1）被害防止事業 ①既設電気柵の維持管理 ②被害多発期の追い払いによる被害防止 ③被害実態調査 （2）生態調査と個体数管理 ①T－1 群の生態と個体数 ②指定地域とその周辺に生息する群の生態と個体数 ③個体数管理 （3）天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査 ①天然記念物指定地域の生息環境調査 なお、平成 24 年度は隔年で行っている樹木の計測等を行わない。 平成 24 年度事業計画（案）は以上です。</p>
小澤文化係長	<p>それでは引き続き平成 24 年度予算案についてご説明いたします。 ○資料に沿って予算案を説明 歳入 委託料 4,473,000 円 （内訳 富津市 2,460,000 円、君津市 2,013,000 円） 歳出 予算額 4,473,000 円 報償費 173,000 円 賃金 2,660,000 円 旅費 325,000 円</p>

	<p>消耗品費 1,300,000 円 役務費 15,000 円</p> <p>平成 24 年度予算案につきましては以上です。</p>
平野議長	<p>説明が終わりました。ただ今から質疑応答に移りますが、何か御質問等ございますか。</p> <p>市の中でもサル・イノシシの被害があり、教育部の立場では高宕山のサルをどうするかということが問題とされているわけですが、経済部と連携をとってやっていくことが必要だと思います。</p>
直井(調査団)	<p>今議長が言われたことに関連しますが、実は今月に入ってからサル用の檻に宇藤原・高溝でハクビシンが3頭、田倉の芹ではアライグマが2頭捕獲されています。地元では有害鳥獣駆除の許可を得ておりますので、それらを兼ねて捕獲檻を設置しています。これらは地元や市の農水によって処分されています。そのような連携が図られていることを報告しておきます。</p>
平野議長	<p>ほかに何かございませんか。ないようでしたら、予算につきましては議会の議決を経てからということになります。富津市はすでに議会が終了しておりますが、君津市は3月26日に議会が終了と聞いております。両市議会の議決が得られた場合には、本委員会としてこの事業(案)、及び予算(案)で事業を実施することに承認を頂いてよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>本件は承認されました。</p> <p>次に議題(3)に移りたいと思います。議題(3)天然記念物「高宕山のサル生息地」に関わる諸問題についてですが、千葉県文化財課の八木さん、また千葉県自然保護課の新津さんよりお話があると伺っています。</p>
千葉県文化財課八木主任文化財主事	<p>私は天然記念物の担当となってから3年が経ちました。前任者からも引き継いでいますが、「高宕山のサル」については長い歴史と色々な問題があり、県の方でもその都度対応してきましたが、対応しきれなかったこともあります。そこで一度現在の問題点を明らかにして、全体を考え直す機会を持ちたいと考えました。私も古くから関わっているわけではないので、認識の違いもあるかと思いますが、一応昔の資料も引き出して、自然保護課の担当の方の協力も頂いて、問題点をまとめてみましたので、これをもとにご説明したいと思います。</p>

<p>千葉県環境生活部自然保護課新津副主幹</p>	<p>○以下、資料に沿って説明。</p> <p>1. これまでの経緯</p> <p>昭和 55 年に文化庁による準指定・要現状変更範囲が設定され、多くの集落・耕作地を含むようになった。また平成 10 年には県自然保護課の「野生猿保護管理計画」でも、この準指定区域と重複してコアエリアが設定された。このコアエリアについては、区域内で農作物被害がでてきていることなどから、以前より見直し要望が出されていたが、十分な議論がなされないまま現在に至っている。</p> <p>平成 23 年 7 月の本事業の会議を受けて、県文化財課では 8 月に文化庁への経過の説明を行い、その結果をもとに、2 市教委・調査団・県文化財課の担当らによる事務局会議を月に 1 回開いて意見交換を重ねてきた。また 12 月には県文化財課と自然保護課との意見交換も行った。</p> <p>2. 文化庁の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準指定は、天然記念物として保護すべき群れ（当時は T-1 群）が指定地外に出ても保護できるように設けたもので、現在のようにその中に T-1 群がないということであれば、保護管理区域としていみがないことになる。 ・今までの高宕山事業のデータを総括し、今後一定期間、国の補助金をとってサルの群れの行動調査などを徹底して行い、その結果に基づいて何を保護し、管理すべきか委員会としての見解を出した上で見直しを考えてはどうか。 ・見直しの事務的な手続きについては文化庁の方で確認する。 <p>3. 自然保護課の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年 3 月に富津・君津両市長から千葉県知事に提出されたコアエリア見直しの依頼については、当時サルの保護についてゾーニングと群れ管理の併用を基本方針とした第 2 次千葉県特定鳥獣保護管理計画が始まったばかりであったこと、範囲については文化財サイドとの調整が必要ということで、コアエリアだけの見直しをすることはできなかった。 ・平成 23 年度には第 3 次の計画策定を行っており、何をどのように保護するかという基本方針に沿ってコアエリアの問題を検討した。 <p>なお、第 3 次保護管理計画につきましては自然保護課の新津さんよりご説明願いたいと思います。</p> <p>私の方からは第 3 次保護管理計画の内容について説明させていただきます。</p> <p>○以下、資料に沿って説明。</p> <p>1. 計画策定の現状</p> <p>第 3 次計画（案）については、利害関係人への意見照会及び関係市</p>
---------------------------	--

<p>千葉県文化財課八木主任文化財主事</p>	<p>町村への協議が終了し、昨日3月22日に環境審議会鳥獣部門へ諮問して承認された。</p> <p>2. 第3次計画の内容</p> <p>千葉県のニホンザルの保護管理は、従来ゾーニングにより実施されてきた。しかしサルは群れをなし、一定の行動域をもつ動物であることから、第2次計画においては、ゾーニングによる管理から群れによる管理の併用へと移行していくことを目指していたが、現在発信器装着によって行動域を把握している群れは21群（全県で87群中、平成12年調査）にとどまり、その全容を解明するには至っていない。</p> <p>従って第3次計画では、第2次計画の内容を大きく変更せず、引き続きコアエリアを存続し、ゾーニングによる管理を基本として、将来的に群れの状況がある程度解明された段階で、群れによる管理の併用へと移行することとした。</p> <p>3. コアエリアの対応</p> <p>コアエリアはニホンザルの保護を目的とした区域であり、基本的に個体数調整は行わないが、加害レベルの高い群れが確認された場合には対策を検討する。またコアエリアそのものの見直しについても関係者との協議に参加する用意がある。</p> <p>第3次保護管理計画の内容とコアエリアに関する私の方からの説明は以上です。</p> <p>今説明がありましたように、第3次保護管理計画においてもコアエリアは当面残るということでした。コアエリアの問題については、その見直しの要望があることも踏まえて、今後も協議を重ねながら、柔軟な対応をしていく必要があると考えます。</p> <p>それでは続きまして、事務局会議の中で提起された高宕山サル被害防止管理事業の現状と問題点についてご説明したいと思います。</p> <p>○以下、引き続き資料に沿って説明。</p> <p>1. 現状と問題点</p> <p>高宕山周辺のサルは天然記念物指定当時とはその生息・行動域が変化し、様々な弊害・矛盾が出ている。現状では次のような問題が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定地外に出ているT-1群を引き続き保護の対象とするか ・指定地外で被害の多い地域をどうするか ・指定地内で農作物を荒らすサルの群れをどうするか ・状況変化によって高宕事業の目標、方針がはっきりしなくなった ・被害対策に関して色々な部署が関わっているが、必ずしも連携が取れていない ・住民の高齢化により、地元で被害対策をやれる人が少なくなった ・ニホンザル個体群をおびやかすアカゲザルの交雑問題が深刻にな
-------------------------	---

直井(調査団)	<p>っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サル事業を担う人員の不足 ・指定地南部について十分な調査ができていない <p>以上の現状と問題点について、何か事務局側として補足することがありましたらお願いします。</p> <p>現在のコアエリアの範囲は、元を辿れば昭和47年当時におけるT-1群の生息範囲から線引きされたものです。その後40年を経過して群れの状況も大きく変化し、現在では南から上がってきた石見堂群が指定地周辺に関わる大きな群れとなっています。この石見堂群が被害を拡大している現状から見れば、個体数調整を実験的に行ってみるのもどうかと県に対して提案したいと思います。ただし銃による駆除は群れの分裂にもつながるので、行動域がコアエリア内にも広がることと合わせて、小形檻による選択的な駆除が望ましいと考えます。</p>
千葉県文化財課八木主任文化財主事	<p>それでは現状と問題点については以上と致しまして、次に今後の事業についての説明に入ります。</p> <p>○以下、引き続き資料に沿って説明。</p> <p>2. 今後の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度は従来通りの事業を実施するが、文化庁担当官の現地視察を実現したい。 ・事務局会議の継続、色々な立場の人に参加して欲しい ・平成25年度以降の事業についての企画立案 ・地元主体の被害防止体制作りとその維持 ・現状に基づいた新しい保護・管理計画を作る（保護すべきサル、地域についての新しい見解を出す ・将来的には県の特定鳥獣保護管理計画を指針とする ・県自然保護課や市の農林部局との連携と分業 ・今までの高宕山事業のデータの取りまとめ ・生態調査と植生調査 ・被害対策の指導・啓蒙（県のモデル事業に則った追い上げ、追い払いの指導と実働） ・交雑の実態調査 ・教育、普及、観光など文化財の活用という視点での取り組み <p>以上の今後の事業に関して、調査団から補足がありましたらお願いします。</p>
直井(調査団)	<p>まず高宕山の天然記念物事業と県の保護管理計画との仕事の分担をはっきりさせた方が良いと思います。この事業が始まった当初はま</p>

	<p>だ県の自然保護課もなく、当事業の必要性も高かったわけですが、保護管理計画もすでに第3次計画まで進んでいる現在、役割を明確にすることが必要かと思えます。まず天然記念物事業では指定地域内の保護管理、環境整備、生態調査、群れ数の調査、他の動物も含めた自然環境調査を担うべきかと思えます。また少し次元は違うが、交雑問題も天然記念物の意義そのものを損なう可能性のある問題ですので、指定地域周辺のモニタリング調査を強化するべきです。</p> <p>今後、県との役割分担を進めていく過程で、先程八木さんから国庫補助事業の話もありましたが、現在中断している県のモデル事業が今後、継続的に実施して頂けるのかどうかも問題になってきます。むしろ天然記念物側としては、そのことを強く申し入れたいと思えます。</p> <p>先程も触れましたが、T-1群と恩田のサルに発信器を付けたられたことも天然記念物事業と県の事業の連携のきっかけになることだと思います。</p> <p>将来的には県の保護管理計画を指針としてやっていきたいということと、自然保護課や市の農林部局との連携が必要であると思えます。天然記念物事業で調査を主にしていくということでは、まだ完全な分業を行うことが難しいと思えますが、現在はその移行期ということで、お互いの連携をとりながらやっていくべきことと思えます。</p> <p>それでは最後にまとめを述べさせて頂きたいと思えます。</p> <p>○以下、引き続き資料に沿って説明。</p> <p>3. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準指定地域・コアエリアの見直しを現時点で直ちに行うことは難しいが、サルの保護管理区域の問題については、できるだけ柔軟な対応ができるような大切をつくる必要がある。 ・天然記念物保護やサルの被害対策には長い積み重ねがある。「保護管理区域の見直し」ということだけを前面に出すのではなく、どのような経緯でこのようなエリアができたのか、そこから出て行ってしまった群れをどう考えるか、天然記念物として何を保護するか、どのようにしたら自然の文化財を活用できるのかという問題を地元やこの会議の中で話し合い、考え方を示すことが必要ではないか。 <p>以上、長くなりましたが、県としての立場からご説明させていただきました。皆様から忌憚のないご意見を頂ければと思えます。</p>
千葉県文化財課八木主任文化財主事	
平野議長	<p>ありがとうございます。何かご質問はありませんか。</p>
武次委員	<p>非常によくまとめて頂き、わかりやすい資料を作って頂いてありがとうございました。先程直井さんも言われましたが、適当な個体数の基準がないと、餌を求めて生息域はどんどん拡大していくと思いま</p>

直井(調査団)	<p>す。エリアの指定ももちろん大事かと思いますが、天然記念物として保護していく上で、適正な数というのがないと話が先に進まないと思えるのですが。</p> <p>なかなか適正な数というのは難しいと思います。地域によりますし、植生によりますし、植物も変化しています。従って一概にここで何頭ということとは言えません。ただモデル的に特定の群れに対して、何頭を目標に減らしてみようということ是可以すると思います。たとえば現在、石見堂群は120頭くらいいると推定されますが、それを100頭以下に保つためには大人のオス、若いオスを減らし、メスに発信器を多く付けることが必要です。それによって同じ群れがどれだけ分かれるのか、単独でどこまで行っているのかもわかります。そのようなことを個体数調整をしながらやっていく中で探るしかないのだと考えます。そして、そのようなことができる県下で一番適当な場所は、この高宕山地区であると考えます。その意味でこの事業でやっている調査は非常に重要であり、そのことは県の保護管理計画の作業部会でも十分認識されていることだと思います。</p>
平野議長	<p>他に何かございますか。</p> <p>それでは私の方から一点述べさせていただきます。昭和31年の指定当時は200頭から始まりましたが、今はその何倍にもなっています。地元とすれば、天然記念物を守っていくことももちろん大事ですが、現実には被害が出て困っている人たちもおり、どのように折り合いをつけてゆくかが難しい問題です。</p> <p>今回、コアエリアは変更しないという話が出ましたが、現在問題となっていることに対応を図っていかなければ、地域の人たちからの理解と協力を得ることも難しいと思います。実際に駆除するにはどのような条件が必要なのか、どこまで認めてくれるのか、そのことが明確にわかれば、地元としても協力できると思います。ただ駆除してはいけなとだけ言われると、サルは増える一方ですし、地域の過疎化や限界集落という問題にもつながります。</p> <p>今回、問題点をよくまとめて頂きましたし、担当者で会議の場を持っていることも前向きでありがたいことだと思いますので、是非続けて頂きたいと思います。</p>
森委員	<p>自分はサルの駆除に回っていますが、サルを殺すのは一番いやなことで、夜もうなされます。サルを傷めないで山に戻す方法があればそれに越したことはないと思います。また電気柵については150m以下でも補助金が出るようにして欲しいと思います。</p>
直井(調査団)	<p>天然記念物事業で電気柵を作る時は、長さの制限はなく、どのよう</p>

森委員	<p>に張れば有効かということでやってきました。ただ補助金を使うと、コストの問題もあるのでどうしても長さの制限がでてしまいます。ただ本当は原点に帰って、県の計画では「群れ対策」をやるということになっているわけですから、地区によって個体数調整か電気柵設置かの区分けをしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>もともとは観光で餌付けをしていたのに、今度は餌をやらなくなって増えてしまったというのは、サルにとっては迷惑な話かもしれません。できればサルを傷めないで、コアエリアに戻すことができればと思います。そしてコアエリアに戻れないサルについては駆除するなり、網などで捕えて他の場所に移す方法もあるかと思います。</p>
池田委員	<p>サルの暮らしを山で見ていると、椎茸を探していたかと思えば、木の上で芽を食べ、道端の青草も食べる、それを同じサルがやっています。山に食料がないから里に出てきたというわけではなく、別に食べるものがあるから人里に下りてくるということだと思います。この30年間でわかったかことはサルが自由に住む場所を変えていくということです。そして群れが抜けたところには周りから別の群れが入ってきます。従って大きくサルを駆除しても無意味だということです。房総丘陵のサルには場所を取られても再生する勢いがあります。これは30年やっていて全く予想外の結果も言えます。</p>
萩原(調査団)	<p>サルは群れで行動している動物です。大きな被害を出しているのも個体ではなく群なのです。ですから発信器を付けてサルの行動域を把握することによって被害を軽減することができます。それがイノシシやシカとは違うところです。</p>
平野議長	<p>山の荒れた農地に果樹を植えたとしても、200頭が800頭に増えれば、結局外に出てくることになります。天然記念物として維持管理していくためには、どれくらいの個体数が限度なのかということ把握しておくのも原点かと思っています。</p>
甲賀委員	<p>すでに高宕山周辺のサルの絶対数がオーバーしているのではないのでしょうか。間引きや殺処分もありますが、麻酔銃でメスを捕獲して不妊手術を行うというのも一案ではないのでしょうか。費用がかかるという問題もありますが。</p>
直井(調査団)	<p>面白いご提案だと思います。現在アカゲザルについては、どこにどういう群れがいるかを把握しなければなりませんから、メスを捕獲すると不妊手術をしてから、発信器を付けて放しています。</p> <p>なおサルの数がオーバーしているというのは確かです。近年房総の</p>

	<p>サルは次第に生活圏を拡大しつつあります。農地を利用したり、とくに君津市の清和では小糸川を利用して平地にも進出しています。こんなことはかつてなかったことです。生活する場所が拡大しているので数も当然増えてくるわけですが、そのことを把握した上で、群によっては駆除する必要があります。そのために県の保護管理計画による群れ管理が必要になってきます。</p> <p>一方で銃による殺処分も広く行われていますが、その後になんか減ったかについては、はっきりしたデータが取られているわけではありません。</p>
森委員	サルは利口ですから猟師にもなかなか撃たせてくれません。
鈿持委員	実際に銃によって捕獲できた数は何頭でもありません。
甲賀委員	おっしゃる通り小糸川のサルは賢く、川に近い集落にも上がってきます。川沿いの低い場所の竹藪は夏は涼しく冬は暖かいので、川に沿って何kmも移動していきます。そして両脇の近い部落に上がってきていたずらをしていくんです。
萩原(調査団)	昔は群れの規模が大きかったので捕獲しやすかったのですが、最近小糸川沿いでは群れが何群にも分裂してしまってハンターが撃つのも難しくなり、捕獲効率が落ちています。ただ頭がいいということだけではない原因があるのかと思います。
直井(調査団)	少数になったサルはゲリラ化していきます。
石井睦弘委員	<p>私は以前、自然保護課にいたことがありますが、群れ管理の考え方は非常に重要なことだと思います。たとえば石見堂群の数を試験的に減らしてゆくというのも、先を見据えた場合重要なのかと思います。</p> <p>天然記念物の原点ということをつかえながら、アカゲザルなどの交雑があるものについては群管理を徹底していく必要があると思います。</p>
牧野委員	<p>野生の群れと動物園の群れとは違うと思いますが、動物園では100㎡に何頭というようにキャパシティが決められています。発情期にはオスとメスを分けるということで個体数の維持管理をしています。現在は30数頭という数を大きなトラブルなく7、8年維持している状況です。</p> <p>なおアカゲザルの交雑を防ぐことは、千葉県固有種を維持する上にも重要であり、交雑個体に発信器を付ける必要があると思います。</p>
萩原(調査団)	アカゲザルの交雑については今や危機的な状態にあると思います。

<p>牧野委員</p>	<p>DNA調査もやっている状況です。そこでお聞きしたいのですが、千葉県のサルのDNAを千葉市の動物園で管理していくようなお考えはないでしょうか。もしアカゲザルの交雑が進んでしまった場合、遺伝子を保存する必要性も高くなってきます。</p> <p>現在、千葉市の動物園では県内の動物をプールして行こうという流れがあります。現在サルについては昭和59年頃にまとめて捕獲された大阪の箕面の群れを展示しています。同じような経緯があれば房総のサルを展示できる可能性もあります。ご提案につきましては前向きに検討させて頂きたいと思います。</p>
<p>直井(調査団)</p>	<p>現在、ハンターはアカゲザルを目がけて捕獲をやっています。交雑の調査は県の方でも試行錯誤しながらやっていますが、たとえば糞のDNA判定によって群れの中の交雑を確認することもできます。アカゲザルの駆除については県事業を中心にやっていますが、あとは予算の関係です。</p>
<p>平野議長</p>	<p>発信器をより多くのサルに付けることが当面の課題と言えるのではないのでしょうか。</p>
<p>直井(調査団)</p>	<p>一昨年県のモデル事業で作らせて頂いた電気柵とそれに伴うバッファゾーンの維持管理をよくやっておくと、イノシシもシカも通り抜けられなくなり、大きな効果が上げられています。</p>
<p>平野議長</p>	<p>イノシシとサルと一緒に駆除できる柵が必要だと思います。</p> <p>以上、長く審議してきましたが、議題(3)では様々な課題が明らかになってきました。事務局会議は有意義ですのでこれからも是非継続して頂きたいと思います。地元でどのような教育ができるのかということが大切だと思います。</p> <p>他に何かございますか。ないようでしたら議題(3)を閉じたいと思います。</p> <p>続いて、4のその他に移りますが、何かご意見ございますか。</p> <p>ご意見等もないようですので、議長の職を解かせていただきます。長時間にわたりご審議ありがとうございました。</p>
<p>小柴生涯学習課長</p>	<p>それでは、以上をもちまして、平成23年度第2回天然記念物「高宕山のサル生息地」被害防止管理委員会を閉会いたします。長時間にわたるご審議ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>